Lancaster Priory and Parish Church

ランカスター小修道院・教会区教会

　このパンフレットは、修道院教会の歴史、建築様式、内装、ランカスター市との関係についての概説です。さらに詳しい説明のほしい方、教会入り口そばの売店でお求めください。

この聖マリア修道院教会は、隣接するランカスター城（現在は裁判所･刑務所として使用）とともに、ランカシャー州の州都、歴史の町ランカスターのもっとも重要な歴史的建造物のあつまった地区の中心に位置しています。

＜これまでの歴史＞　ランカスター城と修道院教会の建つ小高い丘は、古代ローマの要砦の内側にあります。要砦は何世紀もの間にほとんど崩れおち、現在みることはできません。しかし、要砦の一部は、教会の建築中、また考古学の発掘調査で、たくさんみつかっています。いくつかは、今でも教会裏手に残されています。修道院教会裏手からルーン川の聖ジョージ埠頭へ向かう歩道を少し歩くと、右手にあります。

　現在この地にある修道院教会の歴史は、ノルマン人の征服以前にまでさかのぼります。教会に入って左手奥の玄関口は、もともとサクソン族のものと思われますし、北側通路の石の彫刻物も同時代のものです。本教会の記録の最古のものは1094年の文献で、現在、大英博物館に保存されています。その記録には、ポアトゥのロジャー（征服王ウィリアムの遠戚で、ランカスターに最初に城をたてた人物）が「ランカスター聖マリア教会」をノルマンディのシーズにある聖マーティン・ベネディクト会修道院に譲渡したとあります。その後、ある時期に、母体であるベネディクト会教会を代表する修道士の小グループが、自分たちの教会の宗教的、経済的利益のために、ノルマンディーからやってきました。その修道士たちの住居として、（おそらく現在の教会の北側に）いくつか建物が建てられたと考えられています。当時の建造物はもちろん、ノルマン人の教会跡ですら、現在はまったく残っていません。しかし、20世紀はじめに礼拝堂の内陣の床を張り替えたさいに、ポアトゥのロジャーが建てた最初の教会の基礎が確認されています。

1322年、1389年と、ランカスターは二度もスコットランド軍の侵攻にあい、壊滅的な被害をうけます。なぜか、城と教会の大部分は破壊を免れますが、ランカスターの町は、ほぼ全面的に破壊されてしまいます。フランスとの長期にわたる戦争のあいだに、修道院教会とノルマンディの教会とのつながりは完全に切れ、1414年、修道院はミドルセックスのサイオンにあるブリッジティン女子修道院に引き渡されます。その後修道院教会は、サイオン女子大修道院長が司祭任命権をもつ、ランカスター教区教会になります。1539年、ヘンリー8世が宗教改革の一環として、サイオン女子大修道院を解散するまで、その状態はつづきます。教会の建物の破壊がそのときのものか、採石場として使用されているあいだに、壊れるままに放置されていたためかは、よくわかっていません。

＜教会の建物について＞　今日の教会の大半は、サイオン修道院とつながりのある時期に建てられました。南側と東側の壁、アーチに囲まれた中央ネーブ（身廊）、礼拝堂として仕切られた丸屋根の内陣、聖ニコラス、聖トマスの二つのサイドチャペルがそうです。これらの部分は、15世紀の教会建築のすばらしい例といえます。1759年には塔が建立され、何マイル先からもみえる目印となりました。レジメンタル・チャペルと入り口のポーチは1903年に、食堂は（イースターから10月まで、軽食が楽しめます）1981年に増築されました。1993年～94年には、起源であるベネディクト会修道院の設立から9世紀を記念して、教会東側の大規模な修復、教会全体の照明器具の一新、改装がなされました。

レジメンタル・チャペルについて、もう少し説明しましょう。このチャペルは、南アフリカ戦争で亡くなった国王軍（ロイヤル・ランカスター）連隊の兵士の記念碑として、20世紀はじめに建てられました。ここには、二度の世界大戦で重症を負った兵士の詳細が記されています。この連隊は、1959年にカーライルを本拠地とする、同じく有名なボーダー連隊と合併するまで、バーラム兵舎（現在のランカスターの、聖マーティン・カレッジの敷地）に駐屯していました。連合部隊は国王軍ボーダー連隊（King's Own Royal Border Regiment）
として親しまれていますが、今でも本教会と密接につながっており、この地区で新兵を募集しています。チャペルの天井には、18世紀からの連隊旗コレクションが飾られています。

＜内装＞　本修道院でもっともすばらしいのは、なんといっても内陣の両側にある美しい彫刻の施された聖歌隊席の椅子でしょう。彫刻のなされた肘掛、座席下のミゼリコード（起立のさいに体を支えるための、折りたたみ椅子裏につけらた突起）のついたこの椅子は、14世紀のものと思われますが、さらなる研究が必要です。地元では、聖歌隊の椅子はコッカーサンズ大聖堂からランカスターに運ばれてきたと言い伝えられていますが、この説を裏付ける証拠はなにも残っていません。

聖歌隊席の背の部分でもある壁のタピストリーは、内陣のクッション、膝当てとともに、手作りの作品で、故ガイ・バートンのデザインです。多くはこの地域特有のデザインで、重要な意味あいをもっています。これらの手工芸品は、サイド・チャペルにある刺繍品とともに、教会に通う女性たちの手によるものです。こうした作業はいまでも続けられています。祭壇の正面を飾る美しい賭け布もあります。

1619年につくられた説教壇も、ぜひご覧ください。1999年には、王室のご訪問を記念して、天蓋と背板が加えられ、1619年当時の状態が復元されました。上方の王冠は1619年当時のもので、数年前、塔でみつかりました。天井からつるされた三個の真鍮シャンデリアは、1717年のものです。特別行事の際には、今でも明かりがともされます。クリスマスには、ひときわ見事です。

聖母マリアと幼子キリストの白い石像（シーン・ウィリアム作）は、1994年、修道院教会設立900年祭を記念してつくられました。

レジメンタル・チャペルにある真鍮の三本のコプト十字は、ランカスターにしかないものです。おそらく5世紀のもので、1868年のアビシニア方面作戦のさいに、国王連隊がイギリスに持ち帰ったものです。この十字のあった場所が、レジメンタル・チャペルの東端をさすわけです。

同じく注目に値するのが、聖ニコラス・チャペルにある英国海軍旗です。最近、教会に寄贈されたもので、ＨＭＳランカスターとのつながりを証明しています。これは1992年に完成した第23護衛艦の旗です。

＜現在の教会＞　21世紀の初頭にあたり、聖マリア教区教会は、市、州、国王軍ボーダー連隊との密接なつながりを保ちつつ、さらに社会とのつながりを深めていきたいと考えています。教会は、コンサートやキャロル・サービスに、定期的に地域の団体や学校に利用されています。もちろん信者の集会も開かれています。信者たちは、聖歌隊や伝統的な合唱礼拝の活動に加わることによって、さらに信仰を深めています。

＜礼拝時間＞

＜日曜＞

午前8時：聖餐式（Book of Common Prayer）

午前10時：修道院教会聖餐式

午後6時半：夕べの合唱礼拝（B.C.P.）

（合唱礼拝：B.C.P.毎月第一日曜、午前11時半）

＜平日＞

月曜　午後12時半：聖餐式

火曜　午前10時15分：聖餐式

木曜　午後12時半：聖餐式

翻訳：卯城夕岐子・椎名美智

Translated by Michi Shiina (Lancaster University)

© Lancaster Priory 2001

Telephone: 0 1 5 2 4 - 6 5 3 3 8

www.priory.lancaster.ac.uk

Michi Shiina is an Associate Professor in the Department of English Literature,
Hosei University
Tokyo, Japan